

はじめに

当研究所は、昭和37年（1962年）に公衆衛生の向上を図ることを目的として設置されて以来、感染症のまん延防止、母子関連疾病の早期発見、食の安全や大気・水質環境の確保等のため、保健衛生及び環境保全行政の科学的・技術的拠点として試験検査・調査研究を行ってまいりました。

令和元年（2019年）12月、中国武漢市において新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が確認されてから世界中に感染が拡大しましたが、その被害は大きく、今も国内外問わず感染拡大の防止に躍起になっています。令和3年（2021年）9月14日時点で、世界では累計感染者約2億2500万人、死者約463万人、日本国内では感染者数は累計約164万人、死者は16,000人を超えており、札幌市内では、9月14日時点で累計36,534人の感染者が発生し、836人の方が亡くなっています。

現在、新型コロナウイルス感染症の新薬の開発やワクチン接種が進められている一方、次々と現れる変異株が市内を含め国内や海外で感染拡大しており、まだ、先は見えない状況にあります。

このような中、当所におきましては、ウイルス感染症の検査・研究機関として、札幌市内の医療機関から保健所を通じて依頼のあった検体の新型コロナウイルスPCR検査や変異株のスクリーニング、ゲノム解析の分析にあたり、感染拡大の防止に関して重要な役割を果たしてきました。

これからも、札幌市民の健康と安全の維持に寄与すべく、従来の検査技術の研鑽・向上に努めるとともに新たな検査技術の修得し、国や他自治体の研究機関との連携強化を図り、全力で対応していく所存でありますので、関係各位の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

ここに令和3年度（2021年度）の札幌市衛生研究所年報第48号をお届けいたします。当所でのこの一年間の日常業務及び研究の成果であり、皆様方にはご一読のうえ、お気づきの点があればご指導のほどよろしく願いいたします。

令和3年（2021年）9月

札幌市衛生研究所長 山口 亮